

試験科目	人間社会研究科 臨床心理学専攻 (一般選抜)	氏名				
専門論述		受験番号				

解答はすべて解答用紙（別紙）に記載すること。

問1【研究概要】を読み、小問(a)と小問(b)に解答しなさい。

【研究概要】

Takagishi Y., Ito M., Kanie A., et al. (2023) は、心的外傷後ストレス障害 (PTSD) と診断された外来患者 25 名を対象とし、認知処理療法 (CPT; Cognitive Processing Therapy) の予備的有効性 (preliminary efficacy) を検討した。患者 25 名は非盲検の単群での前後比較試験 (single-arm trial) に参加し、平均して 13 回 (標準偏差 = 1.38) の CPT セッションを受けた。この比較試験では PTSD 症状が主要評価項目 (primary outcome) とされ、PTSD 臨床診断面接尺度 (CAPS-IV) を用いて治療前 (ベースライン)、治療後、6 ヶ月後および 12 ヶ月後の追跡調査で測定された。

CAPS-IV 得点の変化を統計的に解析した結果、治療前と治療終了時、6 ヶ月後、および 12 ヶ月後との間で、PTSD 症状の改善を示す有意な平均値差が認められ (有意水準 = .05)、ヘッジス (Hedges, L. V.) の g は、治療終了時が -2.28、6 ヶ月後が -2.95、12 ヶ月後が -2.15 であった。

[出典] Takagishi Y., Ito M., Kanie A., et al. (2023). Feasibility, acceptability, and preliminary efficacy of cognitive processing therapy in Japanese patients with posttraumatic stress disorder. *Journal of Traumatic Stress*, 36(1), 205-217. doi:10.1002/jts.22901

[補足 1] CPT は、通常 12 回の個人セッション (週に 1 回、50 分) を行う。

[補足 2] CAPS-IV は、米国の国立 PTSD センター (National Center for PTSD) が開発した PTSD 診断用の構造化面接尺度を日本語化したもの (Japanese-language version of the Clinician-Administered PTSD Scale for DSM-IV) である (Asukai, N., et al., 2003)。

[補足 3] ヘッジスの g は平均値差の大きさを表す効果量の一つである。

小問(a) Takagishi Y., Ito M., Kanie A., et al. (2023) の研究結果は CPT の予備的有効性を示唆するが、より厳格な方法で有効性を検証する必要がある。その理由について説明しなさい。

小問(b) 有効性の検証に必要な研究計画について、【使用する用語】内のすべての語を含めて説明しなさい。なお、語を使用する順番と回数は任意であり、説明に図表を用いてもよい。

【使用する用語】

患者の割り付け、介入、主要評価項目、標本の大きさ、検定力、有意性検定、効果量

出題の意図

研究論文の目的、方法、結果等の概要を読むことを通じて、臨床心理学に関する研究を適切に把握する能力を測るとともに、語句や表現に対する正しい知識を有しているかを問うことを意図した出題です。

(解答例)

小問(a)

論文形式の設題であるため、具体的な解答例を示すことはできません。本研究は統制群を設けない単群での前後比較試験のみであることから、認知処理療法の有効性が厳格に評価されていないこと、非盲検であることから PTSD 症状の測定に偏りが生じる可能性のあること等を含んだうえで、自らの考えを明確に論述してください。

小問(b)

論文形式の設題であるため、具体的な解答例を示すことはできません。無作為化比較試験に基づく研究計画としたうえで 2 群への患者の割り付けが無作為化されること、2 群への介入の内容、評価項目の測定方法と回数、先行研究や予備的研究で得られた主要評価項目の効果量を参考として適切な検定力で標本の大きさ (2 群の患者数) を判断すること、盲検の可能性、分散分析や混合効果モデル等の適切な統計解析法を適用して有意性検定が行われること、適切な統計量を用いて治療の効果量を示すこと等を含んだうえで、自らの考えを明確に論述してください。

問2 次の専門用語のうちから 3 つを選び、それぞれに選択した番号と用語を〔 〕内に記入し、その内容を 200 字程度で説明しなさい

出題の意図

臨床心理学に関する専門的な知識を問うことを意図した出題です。

選択した番号と用語〔 1. パーテン (Parten, M.B.) の遊びの分類 〕

(解答例)

論文形式の設題であるため具体的な解答例を示すことはできません。遊びの6分類、遊びの発達段階、社会性の発達 等の要素を含んだうえで明確に論述してください。

選択した番号と用語〔 2. 感情の心理的構成主義理論 〕

(解答例)

論文形式の設題であるため具体的な解答例を示すことはできません。コア・アフェクト、内受容感覚、基本感情説との相違、「感情の社会的構成主義理論」との相違 等の要素を含んだうえで明確に論述してください。

選択した番号と用語〔 3. 発達障害者支援法 〕

(解答例)

論文形式の設題であるため具体的な解答例を示すことはできません。支援法の目的、支援の対象者、支援体制 等の要素を含んだうえで明確に論述してください。

選択した番号と用語〔 4. TEA (複線経路等至性アプローチ) 〕

(解答例)

論文形式の設題であるため具体的な解答例を示すことはできません。質的研究、不可逆的時間、等至点、社会的助成と社会的方向づけ 等の要素を含んだうえで明確に論述してください。

選択した番号と用語〔 5. 曝露反応妨害法 〕

(解答例)

論文形式の設題であるため具体的な解答例を示すことはできません。曝露法 (エクスポージャー法)、回避行動 (儀式行為)、不安 (恐怖) 等の要素を含んだうえで明確に論述してください。

選択した番号と用語〔 6. 社会的学習理論 〕

(解答例)

論文形式の設題であるため具体的な解答例を示すことはできません。提唱者、主要概念とメカニズム、理論的位置付け 等の要素を含んだうえで明確に論述してください。

選択した番号と用語 [7. 操作的診断基準]

(解答例)

論文形式の設題であるため具体的な解答例を示すことはできません。操作的診断基準、従来診断、構造化面接、臨床的意義とその限界 等の要素を含んだうえで明確に論述してください。